

一般質問  
Q&A

よりよい町政に  
向かって!



Q. 集中豪雨の備えは  
A. 大山川は集中豪雨でも大丈夫

安藤 春一 議員



安全性が高まった大山川

**Q** 改修後、15年以上を経た大山川の河床は、かなり変化している。河川のメカニズムを熟知し、技術的見地から今後30年は大丈夫との県の説明だが、岡山・兵庫で見られた集中豪雨の惨状は、記憶にも生々しい。突然のゲリラ的大雨に、果たして耐えられるかと心配するのが、住民感情というもの。河床に関して、上流部滑走路の暗渠の管理と下流部の雑木等も気になる。

**A** 大山川は現在、10年に1回の大雨に耐えられる計画で工事は完成している。東海豪雨でも、大山川の堤防は溢水しなかった。また、東海豪雨以降、新川の河床掘削、庄内川から新川に放流する洗堰の高上げ、庄内川と新川の間に巨大な調整池が完成したことで、現在の大山川は東海豪雨時より、さらに安全性は高まっている。

**Q** 関心度の高い食育。食育基本法は、三位一体を旨とする。つまり、食べる側の栄養バランスや安全を。また、作る側への感謝と「もったいない」の精神や作法を学び、さらに残飯をすくなくして、環境(エコ)を意識させる。次世代育成支援の後期計画を様々な観点から修正も必要と思うが、どうか。

**A** 次世代育成支援行動計画での食育は、食育基本法の趣旨から家庭や子どもへの食育の推進だけでなく、様々な角度からとらえた施策内容に拡充させることが重要と認識している。現在計画は、策定段階であるので、食育推進の取組み課題として研究していく。

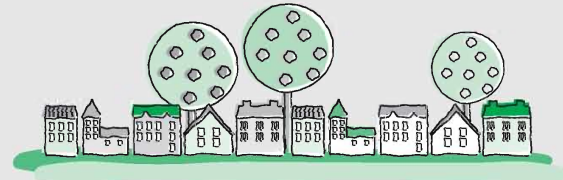
Q. 子育て支援の修正を  
A. 食育推進の取組み課題  
を研究する

——キラリと輝くまちづくりを目指す——  
「第4次総合計画基本構想」可決

2001年策定の第3次総合計画が、本年度で終わる。この10年、本町はもとより内外の環境は大きく変化した。そこで住民との協働で、知恵と創意を結集し、持続可能な自立社会を創生するための第4次総合計画である。

基本構想は2010～2019年(10年間)

- 施策の体系
  1. まちづくりの基本理念と将来像
  2. まちづくりの重点目標
  3. 分野別まちづくり目標と基本施策
- 前期・後期5年ごとに区切って基本計画
- 3年間の実施計画で毎年ローリング
- すべての施策で平均点を目指し、その中から重点項目で100点以上を目指す。



- 基本理念 小さくてキラリと輝くまちづくり
- 将来像 にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ<sup>※注</sup>
- 重点目標
  - 「人」がキラリと輝くまち
  - 「産業」がキラリと輝くまち
  - 「生活空間」がキラリと輝くまち
- 分野別目標
  - 目標1 快適で活気あふれるコンパクトなまち
  - 目標2 にぎわいを生み出す個性豊かなまち
  - 目標3 安心・安全で住みやすさを実感できるまち
  - 目標4 地球にも人にもやさしい持続可能なまち
  - 目標5 助け合い、支えあう健康であたたかなまち
  - 目標6 いきいきとした豊かな心を持った人を育むまち
  - 目標7 住民と行政が共に考え、共に作る信頼のまち

※注 アーバンビレッジとは…都市の要素とビレッジ(村)の要素が、適度に共存・融合し、豊かな暮らしを支えるまちの姿のこと。様々な人が共生する持続可能な地域社会を形成する都市づくりの考え方。

豊山保育園新築工事に変更

10月13日(火)開催の臨時議会に、豊山保育園(園舎新築)の工事請負契約の締結についての議案が提案され、全員賛成で、可決された。工事の着手は11月初旬、来年6月末に完成する予定。当初は、増築の計画であったが、耐震の再評価をした結果、更なる耐震工事が必要であることが分かり、独立した園舎を新築することになった。



豊山保育園に  
新築予定の現場

9月議会に提出された意見書

- 基地対策予算の増額等を求める意見書 (全員賛成)
- 学級規模の縮小と次期定数改善計画の実施を求める意見書 (全員賛成)
- 国の私学助成の増額と拡充に関する意見書 (全員賛成)
- 愛知県の私学助成の増額と拡充に関する意見書 (全員賛成)
- 「協同労働の協同組合法(仮称)」の速やかなる制定を求める意見書 (全員賛成)

